

東洋経済／第14回CSR調査(2018年)

3.環境編

ご依頼しております「東洋経済・CSR調査」のうち、「環境編」についてのご記入・ご回答をお願いいたします。
ご多用中まことに恐縮ですが、8月10日(金)の期限までに「窓口ご担当者様」を通じて、ご返送いただきたく存じます。

- 御社「環境編」ご記入担当者欄(昨年ご回答いただきましたご担当者様名等)を出力しております。変更の場合は、赤字でご修正ください。
※ご返送いただけない場合は、青字表示データ中心に掲載させていただきます

御社名： ㈱東洋経済工業	ご記入担当者名： 東洋太郎
※傘下会社名： (御社が純粋持株会社の場合に記入)	同、部署名： 環境管理部
※単体ベース以外のご回答の場合、その内容：	同、TEL： 03-3246-0000
小社使用コード： (この欄は小社で記入)	同、FAX： 03-3242-0000

小社東洋経済オンライン(CSRオンライン)にご用意しています「ご回答の手引き」をご参照いただき、ご回答ください。

- 以下の各項、前回ご回答があった場合、その内容を青字で出力しております。
今回変更なければそのまま、変更があれば、赤字でご修正または新規ご記入をお願いします。

Q1 環境対策担当部署の有無(1つ選択)

- ① 専任部署あり ~~2. 兼任部署で担当~~ 3. なし 4. その他 ()

該当部署名(直近の名称でお答えください。複数ある場合はそれぞれお書きください)

部署名(**環境管理部**)

Q1注記

Q2 環境担当役員の有無(1つ選択)

1. 専任役員あり 2. 兼任役員あり 3. なし 4. その他

担当役職名・肩書(**常務取締役環境管理部長**)

担当役員の担当職域のうち、環境関連業務が占める割合(1つ選択)

1. 100% 2. 過半 3. 半分以下

Q2注記

Q3 環境報告書など環境方針文書(公開されているもの)の有無(1つ選択)

1. あり 2. なし 3. 作成予定

HP上での公開 → 1. あり 2. なし 3. 予定あり

Q3注記

Q4 環境会計(あるいはそれに準ずるもの)の有無(1つ選択)

1. あり 2. なし 3. 作成予定

(上記で1. あり あるいは3. 作成予定の場合のみお答えください)

費用と効果に関する金額把握について(1つ選択)

1. 環境省ガイドラインに準拠して把握 2. 自社独自あるいは業界独自方法で把握 3. 両方(1、2)

4. 費用のみ金額把握 5. 金額把握はしていないが、一部物量把握している

6. 特に把握していない 7. その他 ()

環境会計(あるいはそれに準ずるもの)の公開(1つ選択)

1. 公開 2. 非公開 3. 公開予定

環境会計の会計ベース(1つ選択)

1. 単体ベース 2. 連結ベース 3. その他 ()

Q4注記

Q5 環境会計の主要な費目別金額・数量をご記入ください(金額・数量として把握されているものだけで結構です)

環境保全コスト	2016年度		2017年度	
	投資額(百万円)	費用額(百万円)	投資額(百万円)	費用額(百万円)
事業エリア内コスト	1,264	3,803	1,184	4,012
上・下流コスト	3	195	0	134
管理活動コスト	7	531	1	535
研究開発コスト	27	868	136	1,297
社会活動コスト	0	128	1	215
環境損傷対応コスト	0	133	0	0
合計	1,301	5,659	1,322	6,193

環境保全効果に関する環境パフォーマンス指標	2016年度	2017年度
総エネルギー投入量 (GJ)	1,265,900	1,247,500
特定管理対象物質投入量 (t)	124	87
水資源投入量 (m ³)	4,195,000	4,284,000
温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	65,441	62,814
特定化学物質排出量・移動量 (t)	467	587
廃棄物等総排出量 (t)	1,977	1,489
総排水量 (m ³)	1,568,000	2,169,500
NOX (t)	140	132
SOX (t)	186	172

環境保全対策に伴う経済効果(実質効果)	2016年度(百万円)	2017年度(百万円)
費用削減額	1,166	922
収益額(リサイクルなど)	697	773
合計	1,863	1,695

注記

スコープ3による温室効果ガス排出量の集計状況について(1つ選択)

1. 集計している 2. 集計していない 3. 今後予定 4. その他 ()

スコープ3による温室効果ガス排出量 (t-CO₂)

2016年度	1,020,000	2017年度	1,009,000
※上記質問で「1. 集計している」の場合のみお答えください			

注記

Q6 環境監査の実施状況について(1つ選択)

- ① 定期的実施 [→実施頻度は:内部監査(**年2回**) 外部監査(**年1回**)]

- ~~2. 不定期に実施~~ 3. 実施していない

4. その他 ()

Q6注記

Q7 環境マネジメントシステム(EMS)の構築について(1つ選択)

1. ISO14001を認証取得 2. ISO14001を認証取得予定

3. 自社独自のEMSを構築 4. EMSは構築していない

5. その他 ()

Q7注記

記入例

※ Q7で「1. ISO14001を認証取得」以外でも同等とお考えの場合はお答えください

Q8 ISO14001の取得事業所割合を算出基準(1つ選択)とともにご記入ください(概算でも結構です)

(国内) 国内全事業所に占める取得事業所の割合(%)
 割合算出基準 1. 従業員数ベース 2. 事業所件数ベース 3. 生産量ベース 4. その他 ()
 (海外) 海外全事業所に占める取得事業所の割合(%)
 割合算出基準 1. 従業員数ベース 2. 事業所件数ベース 3. 生産量ベース 4. その他 ()
 Q8注記

Q9 環境(CO2排出量・原単位削減を含む)に関する中期計画についてご記入ください

環境分野に関する中期計画の有無(1つ選択)
1. あり 2. なし 3. 検討中 4. その他 ()
 その中でCO2排出量・原単位削減に関する中期計画の有無(1つ選択)
1. あり 2. なし 3. 検討中 4. その他 ()
 COP21(パリ協定)の内容を中期計画作成で参考にしているか(1つ選択)
1. 参考にしている 2. 参考にしていない 3. 検討中 4. その他 ()
 参考にして作成した内容(**2030年度に2013年度比26%削減を目標に環境投資(設備の更新など)を推進する**)
 環境全体(CO2排出量・原単位削減を含む)に関する中期計画を具体的数値等でお書きください(目標年度・比較年度・削減率・対象範囲など、200字程度)
 (例) 目標○○年度に、△△年度比●●%削減、××年度比▲▲%削減、対象は国内全工場、生産・物流・開発設計別など
目標2014年度に2000年度比排出量、原単位ともに+0%削減、対象は全工場
 2020 2010 20

Q10 2017年度の環境対策についての目標・実績をそれぞれテーマ別で具体的に2つまでお書きください(目標を達成できたとお考えの場合はチェックもしてください) ※緑字は昨年時点のデータです

目標が達成できたとお考えの場合はチェックしてください

CO2排出量・原単位削減		緑字部分をそのまま(または一部を)ご回答とする場合は該当部分を赤で囲んでください
2017年度目標(設定・範囲、数値など具体的に)		2017年度実績
<input checked="" type="checkbox"/> ①	2010年度比15%削減(原単位)	-17% 19
<input type="checkbox"/> ②		
エネルギー削減		
<input checked="" type="checkbox"/> ①	電力消費量(原単位) : 2011年度比4%削減	-5% 19
<input type="checkbox"/> ②	上水使用量 : 40m3/人以下	43m3/人
リサイクル		
<input checked="" type="checkbox"/> ①	再資源化率 : 90%以上	91% 90
<input type="checkbox"/> ②		
廃棄物削減		
<input checked="" type="checkbox"/> ①	焼却廃棄物発生量 : 1万t/年以下	8000t/年
<input type="checkbox"/> ②		

注記

その他に2017年度の具体的な取り組みがあればお書きください(100字程度)

Q11 事務用品等のグリーン購入比率をご記入ください(概算で結構です)

対象範囲

2016年度	<input type="text" value="92.5"/> %
2017年度	<input type="text" value="95.8"/> %

Q11注記

Q12 グリーン購入への取り組み状況(1つ選択)

1. GPN(グリーン購入ネットワーク)ガイドラインにのっとり、グリーン購入を実施
 2. 自社独自指針にのっとり、グリーン購入を実施 3. グリーン購入は行っていない
 4. その他 ()

Q12注記

Q13 原材料調達についてご記入ください

原材料のグリーン調達について(1つ選択)
1. 包括的なガイドラインを定め、それに従って実施 2. 部分的なガイドラインを定め、それに従って実施
 3. 原材料のグリーン調達は行っていない 4. 業態として原材料の調達は必要ない
 5. その他 ()

取引先への対応(すべて選択)
1. 取引先等への指導を行っている 2. 取引先等の評価を行っている
 3. その他 ()

その他、具体的な取り組みがあればお書きください(100字程度)

グリーン調達基準に加え、独自の生物多様性ガイドラインを策定し、サプライヤー向け勉強会を実施

Q13注記

Q14 環境ラベリングの取り組みについて(すべて選択)

業態として特に取り組む対象がない→ (チェックしてください) チェックした場合は以下はお答えいただくことなく結構です

1. エコマークなど第三者審査を受けた環境ラベルによって環境情報を開示
 2. 自社独自基準による環境ラベルで環境情報を開示
 3. ISO14020でのタイプⅢ型環境ラベルで、全工程における環境負荷を定量的に開示
 4. 特に取り組みは行っていない
 5. その他 ()

上記環境ラベリングを行っている製品・サービスの、全製品・サービスに占める割合(概算で結構です)

1. エコマークなど → (~~90~~ %) (注記)
 2. 自社独自ラベル → (%) (注記)
 3. タイプⅢラベル → (%) (注記)

Q14注記

Q15 環境リスクマネジメントについてご記入ください

事業活動で大きな自然環境汚染が発生する可能性の有無(1つ選択)

1. あり 2. なし 3. 不明

上記1の場合、どのような自然環境の汚染等を想定しているか具体的にお書きください(100字程度)

工場排水による周辺の河川の汚染

将来発生の可能性のある環境改善、排出、事故等の費用の準備(保険、引当金、積立金等)の有無(1つ選択)

1. あり 2. なし ~~3. 検討中~~ 4. その他 ()

環境リスクマネジメントの取り組みについて(手法なども含む)具体的にお書きください(100字程度)

ISO14000に準じて環境影響評価と緊急事態への準備及び対応を行っている

事業所敷地内等における土壌・地下水の汚染状況の把握(1つ選択)

取り組む対象がない→ (チェックしてください) ⇒ 「4.把握していない」をお選びいただかなくて結構です。

1. 数量等を把握し公開 2. 数量等を把握しているが未公開 3. 部分的な把握にとどまっている

4. 把握していない 5. その他 ()

水問題の認識(1つ選択)

1. 経営に大きな影響を与える 2. 今後大きく影響すると予想

3. 特にリスクとは考えていない 4. その他 ()

想定している水問題について具体的にお書きください(100字程度)

気候変動などによる水不足。工場排水による水質汚染

水問題の解決のために取り組んでいることがあれば具体的にお書きください(100字程度)

昨年より事業所ごとの取水量と排水量を測定し、使用水量の削減に向けた取り組みをスタートさせた

Q15注記

Q16 環境関連法令等についてご記入ください

順守のために時間、費用、マンパワーなど大きな労力をかけているとお考えの環境関連法令を国内、海外それぞれ2つ程度お書きください

(国内)

①大気汚染防止法 ②水質汚濁防止法

(海外)

欧州RoHS指令

環境関連法令違反等について(1つ選択)

環境関連法令違反の有無

- 2016年度 1. あり () 件) 2. なし 3. 不明

- 2017年度 1. あり () 件) ② 2. なし 3. 不明

環境問題を引き起こす可能性のある(あった)事故・汚染の有無

- 2016年度 1. あり () 件) 2. なし 3. 不明

- 2017年度 ① 1. あり (1 件) 2. なし 3. 不明

環境問題に関する苦情の有無

- 2016年度 1. あり () 件) 2. なし ③ 3. 不明

- 2017年度 ① 1. あり (2 件) 2. なし 3. 不明

Q16注記

Q17 2016年度、2017年度において環境に関する特筆すべき表彰事例がありましたら、お書きください(2つまで)。最初に表彰名(20字程度)、続いてカッコ内(50字以内)に主催者、内容等をお書きください

2016年度	① 第19回地球環境大賞国土交通大臣賞 (フジサンケイグループ主催)
	② 第4回ロハスデザイン大賞 (ロハスクラブ主催)
2017年度	① 省エネ事例部門資源エネルギー庁長官賞 (省エネルギーセンター主催)
	② ()

Q17注記

Q18 環境への影響(気候変動、生物多様性等)についてご記入ください

気候変動対応についての取り組みについて(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. その他 ()

再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱など)の事業所、本社ビル等への導入について(1つ選択)

1. 行っている 2. ~~行っていない~~ ③ 3. 検討中 4. その他 ()

再生可能エネルギー導入について具体的な事例を2つまでお書きください(100字程度以内で)

本社ビルに太陽光パネルの設置を検討中

環境影響評価(アセスメント)の取り組みについて(すべて選択)

1. 義務づけられたことは行っている 2. 独自の取り組みを行っている 3. 独自の取り組みを検討している

4. その他 () 5. 業態として、特になし

実施頻度や内容 ()

事業活動による生物多様性への影響について(1つ選択)

1. 事業活動による影響について把握している

2. 把握していない

3. その他 ()

4. 不明

生物多様性の保全プロジェクトへの支出額(単位:百万円)

2016年度	0.12	2017年度	2	※百万円未満の場合は小数でお書きください。例:1万円→0.01
--------	------	--------	---	---------------------------------

生物多様性の保全に関する取り組みについて具体的な事例を3つまでお書きください(200字程度以内で)

①インドネシアの絶滅危惧種生物の保護活動 ②本社敷地内に東京に生息する20種の野生植物を育て、保護 ③タイの国立公園で熱帯林の再生プロジェクトに参加

容器包装削減の取り組みについて(1つ選択)

1. あり 2. なし 3. 検討中 4. 容器包装などは使わない 5. その他 ()

内容 ()

環境ビジネスへの取り組みについて(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. 検討中 4. その他 ()

内容 ()

カーボンオフセット付き商品・サービスの提供について(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. 検討中 4. その他 ()

内容 ()

●ご記入ありがとうございました。

お手数ですが、窓口ご担当者様を通じて、ご返送いただきたく存じます。

この調査のお問い合わせ先

東洋経済新報社 データ事業局CSRデータ開発チーム(担当:大森、河野、岸本、松井)

(E-mail: csr@toyokeizai.co.jp)

〒103-8345 東京都中央区日本橋本石町1-2-1